



銀賞 「よそから来た少女」
加藤 愛子 出雲市 デスクペン

よそから来た少女
寄りこむ新し春が来て
さういふの言葉が歌のほほえ
或る谷の音へ歌者たちのくちうに
美——い不思議な少女が歌あはうた
少女はそのまゝ生れてはぐく
うぢに何ぞ怒り来るのか誰も知らず
また歌れを告げよとされば
行者ほ思も落ちなかつた
少女の暮らうるには喜びかなるよ
誰の心も押しつぶされなかつた
一からお別れうなごとすよ
本わけたうらう少女は歌あはせた
就女は衣ひと持て来た
さう他の野に穏な果实を持って来た
それはもとより幸福が自然の中て
おもむきの「達日未」
おまれた果实だった
ふ者には衣ひとの者には実と
少女はみんなに贈りあつた
者も彼のをりくて家に帰つた
惟ひくう根もれは一ぐわつた
くりも愛一合つて
云の者が歌あたとい
少女は笑ひんり贈りあつた
最も喜一い華を二人にすらた
愛子りく聞
「子一傳と



銅賞 「本居宣長の文字鎖」
島田 洋三 江津市 電気コテ



銀賞 「山頭火の句」
植田 畦水 江津市 パンパス葦 撥水液



銅賞 「笑う」
松崎 君江 松江市 綿棒 漂白剤



銅賞 「隠岐の新道に歩を進めて…」
中野 勝枝 海士町 布を丸めて柄をつけた割り箸



知事賞 「縁」
柳楽 良夫 出雲市 櫻 グラインダー 帯のこ



金賞 「般若心経」
浅野 宏明 江津市 カッターナイフ 拓本墨